

最高のクラス を目指して

枚方市立楠葉中学校・教諭
中島 毅士

一緒に過ごした1年

去年の4月の入学式での感激は、一生忘れることができないと思います。自分が担任するクラスの生徒が入場してきたとき、「教師になったんだ。この子達の担任になるんだ」と夢が叶った嬉しさから涙がこぼれてきました。そして、この子達と本音で語り合い、最高のクラスを一緒につくっていくぞと心に誓いました。

毎日、楽しいことばかりだと良いのですが、そう上手くはいきません。そんなとき助けてくれるのも生徒です。「先生、最近顔暗いよ、なんかあったら相談のるで」と言ってもらったこともありました。また、パワーをくれるのも生徒でした。そんな優しい生徒たちに囲まれて、1年間過ごすことができました。みんなで大声で叫んだ体育祭、放課後遅くまで練習した文化祭の合唱、グラウンドに出て、合唱の声出しもしました。そんな風に全力で子どもたちと突っ走っています。本当に、教師になれて良かったと実感する毎日です。

数学の授業風景



「ピンチ」話さるの

「ピンチはチャンス」。これは僕が常に頭に入れているダイスキな言葉です。中学生は自分の気持ちに素直になれず、思い通りにならないことも多々あります。そんな時、頭によぎるのがこの言葉。生徒と話し合う時間をとって、ホームルームをして、子どもたちに色々なことを考えてもらえるチャンスなんです。そうして話し合いを続けていくと、子どもは必ず変化してくれる。成長してくれる。やっぱり教師で大事なものは、トコトン話し合うこと。何かが起こったときはチャンス！ そう思って毎日過ごしています。生徒の成長を見る時が一番嬉しいときです。常に話し合いを大事にして、最高クラスを目指していきます。

これ・あれ・と・ひ

ヒト・モノ・デザイン

BLUE MOUSE BOX
イラストレーター&デザイナー
廣田 真理

モノづくりのお仕事は「学び」の連続

メーカーの企画部でデザイナーとして5年間勤めた後、フリーのデザイナー&イラストレーターとして独立し、4年が経ちました。勤務先では主に、ゲーム機で使用する景品のぬいぐるみや雑貨を中心に商品デザイン等に携わりました。学生時代に培ったデザインの技術だけを頼りにモノづくりの世界に飛び込みましたが、入社当時は商業デザインはもとより、Macを使ったデジタルワークについても全く無知な状態で、仕事に必要なスキルや発注者の要求を満たす力量を身につけるには相当な努力が必要とされました。まさに「実務に勝るテキスト無し」。自分のセンスやスキルの壁にぶち当たったり、それを克服するために必死で頑張る…。そうして自分の手掛けたモノが市場に出回る快感。その繰り返しで得た経験は、自分にとって大きな財産になりました。

仕事で自分を選んでくれる不思議

独立後は、イラスト・カタログ・チラシ・ファンシー商品のデザイン等の制作に携わっていますが、ひよんなことから

デザイン専門学校で職業訓練講座の講師を担当することになり、巡り巡ってまた教壇に立つ機会を得ました。モノづくりのお仕事も、訓練生への指導も、自分という存在が少しでも人や社会の役に立つという事は、とても意義深い事だと感じています。自分が選ぶのではなく、仕事の方が自分を必要としていて、自然とその環境に引き込まれる…。そんな巡り合わせの不思議をひしひしと実感する毎日です。大学で学んだ事、会社での経験、全てが今の仕事に繋がっていることへの感謝。またそれを自覚して、今後も色々なヒトやモノとの縁を大切に「創る」喜びを感じて行きたいと思っています。

